



共同リリース



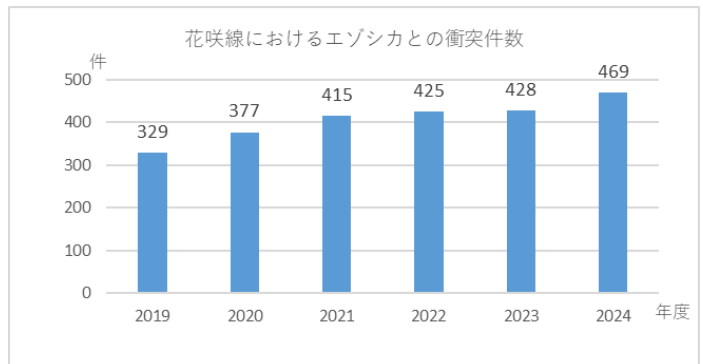
2025年5月30日
北海道旅客鉄道株式会社釧路支社
環境省釧路自然環境事務所

花咲線における野生動物との衝突事故を防ぐ取り組みについて

釧路と根室を結ぶ花咲線は自然環境に恵まれ、素晴らしい景色の広がる区間を列車が運行していますが、一方でエゾシカをはじめとする野生動物との衝突事故も多く苦慮しています。北海道旅客鉄道株式会社釧路支社（以下、JR釧路支社）と環境省釧路自然環境事務所（以下、釧路自然環境事務所）では、（株）猛禽類医学研究所等関係の皆様と連携を図りながら様々な取り組みを進めています。

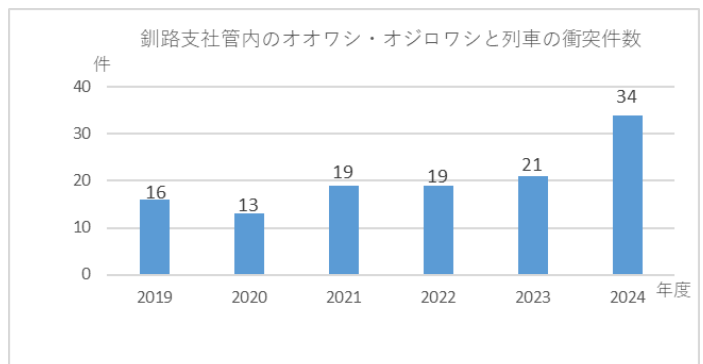
1. 花咲線におけるエゾシカとの衝突状況

- 花咲線ではエゾシカと列車の衝突事故が年間約400件発生しています。
- 特に秋から冬にかけて衝突が増える傾向にあります。
- エゾシカの頭数が増え続けることにより列車との衝突が増える傾向にあり、列車の安全・安定輸送の観点からエゾシカ対策が必要と認識しています。



2. 希少猛禽類との衝突状況

- エゾシカとの衝突事故は列車の運行に支障が生じるのみならず、特別天然記念物及び種の保存法指定種であるオジロワシ、オオワシなど希少猛禽類と列車の衝突事故も誘因しています。希少猛禽類と列車の衝突事故は2024年度JR釧路支社管内では34件発生しました。



※JR釧路支社管内とは、根室線新得駅～釧路駅、花咲線釧路駅～根室駅、釧網線東釧路駅～網走駅

3. 花咲線における野生動物との衝突事故を防ぐ取り組みについて

このような中、ＪＲ釧路支社と釧路自然環境事務所では、関係の皆様と連携を図りながら、花咲線における野生動物との衝突事故を防ぐため、様々な取り組みを進めています。

(1) ＪＲ釧路支社の取り組み

①列車の減速運転

- 2022年12月から野生動物との衝突事故防止を目的として、衝突の特に多い夕方、夜間の列車を中心に減速運転を開始しました。減速した列車に限ると効果が出ているため、継続して実施しています。（釧網線でも一部列車で実施しています）

（花咲線 12月～3月の衝突件数）

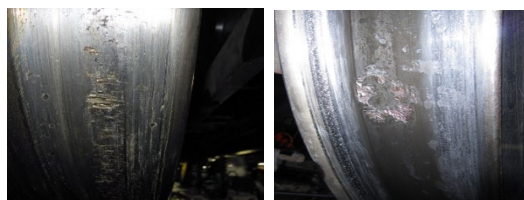
	2021年度	2022年度	増減	対前年
減速列車	111	81	△30	73%
減速列車以外	110	124	+14	113%
合計	221	205	△16	93%

(参考) 車輪修繕体制の強化

- 花咲線で使用しているキハ54形車両において、特に冬期間、エゾシカとの衝突を避けるために急ブレーキをかけた際、車輪が損傷して車両が使用不能となり運休が生じる場合があります。
- 特に2022年度冬期にこうした運休が花咲線において多数発生したことから、車輪修繕体制の強化を図っています。

【車輪損傷が原因の花咲線運休本数】2022年度 90本 → 2024年度 35本

（車輪傷の例）



（在姿車輪旋盤(外観及び室内)）



②エゾシカ侵入防止柵の設置

（エゾシカ侵入防止柵）

- 現在、花咲線では別当賀駅～落石駅間を中心に4,833mのエゾシカ侵入防止柵を設置しています。今年度も約300m増設する予定です。



(2) J R 釧路支社と釧路自然環境事務所の連携した取り組み

①ポスターによる啓発

- 花咲線のすばらしさと野生動物との衝突防止対策についてご理解をいただくための3連貼のポスターを作成しました。釧路駅などで掲出をしています。



②車両にドライブレコーダーの設置

- 野生動物との衝突状況を把握、分析するため、花咲線で定期運用しているキハ54形車両にドライブレコーダーを設置しています。ドライブレコーダーの分析では(株)猛禽類医学研究所の協力を得ています。(勉強会の様子)

③野生動物勉強会の開催

- 野生動物の特性について理解を深めるため、J R 社員向けの勉強会を開催しています。



④エゾシカ覆隠シートの開発

- 釧路自然環境事務所、(株)猛禽類医学研究所と連携し、エゾシカの死骸が回収されるまでの間に希少猛禽類が誘引されないように死骸をシートで覆う「エゾシカ覆隠シート」の開発、試行を進めています。

※エゾシカ覆隠シートの詳細につきましては、以下をご参照ください。

<https://hokkaido.env.go.jp/kushiro/content/000132309.pdf>

(エゾシカ覆隠シート)



4. 今後の取り組み

- J R 釧路支社と釧路自然環境事務所では引き続き連携を深め、野生動物と列車の衝突防止の対策に取り組んでまいります。